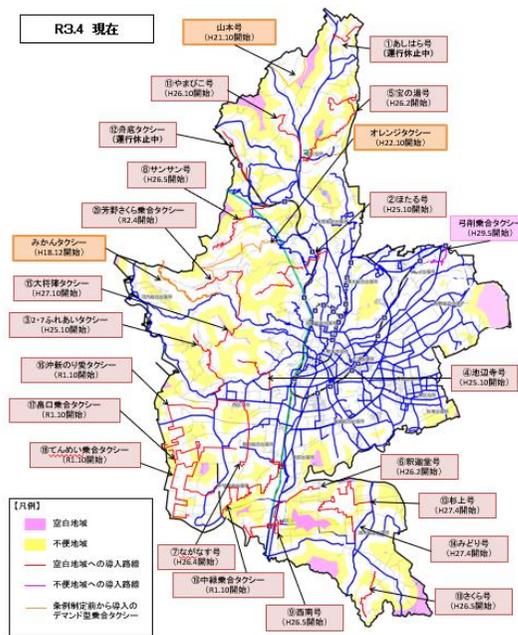


1. 目的

- バス路線等でカバーできない地域は、地域と連携しながらコミュニティ交通を導入し、日常生活に必要な移動手段を確保
- 地域の特性や実情に応じた新技術（AI、ICT）を活用した新たなコミュニティ交通の導入について検討

2. これまでの取り組み状況（公共交通空白地域等へのコミュニティ交通）



■ 公共交通空白地域

停留所等（路線バス停や鉄軌道駅）からの距離が1,000メートル以上離れた地域

■ 公共交通不便地域

公共交通空白地域以外の地域であって停留所からの距離が500メートル以上1,000メートル未満の地域

運行実績	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
公共交通空白地域	路線数 15路線 利用者数 2,359人	13路線(※1) 2,283人	17路線(※2) 3,332人	18路線(※3) 3,378人
公共交通不便地域	路線数 2路線 利用者数 1,080人	2路線 1,011人	2路線 1,235人	1路線(※3) 224人
みかんタクシー	路線数 1路線 利用者数 2,659人	1路線 2,318人	1路線 2,136人	1路線 1,464人
オレンジタクシー	路線数 1路線 利用者数 738人	1路線 606人	1路線 682人	1路線 595人
合計	路線数 19路線 利用者数 6,836人	17路線 6,218人	21路線 7,385人	21路線 5,661人

※1：H30.4.1から2路線運休
 ※2：H31.10に4路線新設
 ※3：R2.4.1から公共交通不便地域路線から空白地域路線に1路線移行

3. 今年度の取り組み

公共交通空白地域等における予約型乗合タクシー

- アンケート調査の実施
 - 乗合タクシーは、既存バス路線の廃止等に伴う代替の移動手段として、既存の公共交通を補完する形で導入しているものであるが、利用者のニーズに対応できているのかといった課題があると認識
 - 乗合タクシーを導入している地域において、区役所、市タクシー協会とも連携しながら、利用者、タクシー事業者等へのアンケートを実施
 - アンケートで得られた情報をもとに、現在の利用者の傾向・現行制度の課題・利用者からの要望等を整理し、よりよい制度へと見直しを行う
- 未導入地域やバス路線廃止等により新たに公共交通空白地域等となる地域における乗合タクシーの導入について、引き続き検討を行う。

新たなコミュニティ交通の導入

- AIデマンドタクシーとは
 - スマホのアプリなどに行き先を入力すると同じ方向に向かう人と組み合わせる配車
 - 料金は**タクシーより安く、鉄軌道・バス・コミュニティ交通より高い**
 - 相乗りだが、タクシーの同等の機能で**ドア・ツー・ドアの移動が可能**
 - 既存の公共交通と競合しない**新たな移動手段の可能性**



① 乗客Aから迎車依頼 ② 別の乗客Bから迎車依頼 ③ AIがルート計算乗客ABが相乗り
 ▲ AIを活用したデマンドタクシーイメージ（荒尾市資料）

■ 実証実験の概要

- ① 目的
 - ・ 既存公共交通を補完し、**効率的な運行を可能とするAIを活用した新たなコミュニティ交通の実証実験**を行い、今後の導入可能性を検討
 - ・ 本年度は、**産官学による相乗りタクシーの実証実験を実施**
- ② 時期 令和3年度 秋頃
- ③ エリア 健軍地区周辺
- ④ ターゲット 市民の方々の日常使い（通勤、通学、通院、買い物など）
- ⑤ 実施主体 産官学（熊本学園大学、熊本大学、タクシー事業者、熊本市等）